

まちのニュース えっ! そうなんだ。

栄町には、多くの俳人が訪れ、句を詠んでいます。「ホトトギス」を主宰した高浜虚子や「馬酔木」を主宰した水原秋桜子などの句碑もあります。一時期 栄町はとても俳句が盛んで句会などもよく行われたそうです。



栄町には多くの俳人が訪れていたのですね。

高浜虚子
「水温む 利根の堤や 吹くは北」

大正六年にこの地を訪れ、長門橋のたもとから高瀬舟に乗り、大漁節などを大合唱し大いに楽しみ、長門川から利根川を下りながら詠んだ句。碑文にはその時の様子が詳しくきざまれている。



長門橋たもと

高野素十
「夜振の火 方々に燃え 沼に燃え」

昭和二十二年、この地を訪れたとき安食小学校の高台に立つて詠んだ句。夜振は暗夜、松明などを灯して行う漁で、印旛沼で行われていた様子がわかる。



安食小学校 坂道途中

荒木東皐
「菜の花や 利根の堤の 大曲り」

成田山新勝寺第十八世大僧正の句。大僧正が従者を伴い、お忍びで利根の堤を逍遙された時に詠んだものである。碑は親交のあった梶谷光之助氏が建立。



長門川公園

篠田麦子
「月の出の 川面あ可るし くつわ蟲」

栄町興津生まれ。本名篠田信男。東京都消防総官となり、防衛の大任にあたりながら、俳句を愛し水原秋桜子に学ぶ。碑は栄町消防団建立。



長門川公園

小林竹清人
「台風の 兆のみゆる 浪がしら」

栄町長門谷生まれ。本名小林宗一郎。長門橋のたもとに荷揚げされる海産物などを販売しながら、高浜虚子などと句会を開催。



ながと幼稚園裏

水原秋桜子
「柴漬や 古利根けふの 日を沈む」

昭和五年頃この地方に古くから伝わる漁法、柴漬の探求にしばしば訪れていた。たまたま橋上より将監川の葦原に沈む日の美しさにたたずみ詠まれた句である。



甚兵衛橋横

【俳句ウォーキングに出かけよう！】

秋風が吹くようになったら、栄町を訪れた俳人が詠んだ句が刻まれている句碑を巡りながら歩いてみませんか。

句碑の前に立ってみると遠く昔に思いを寄せてなつかしいふるさとの風景や俳人たちの思いに出会えます。「そこで1句」思いのまま俳句を作ってみませんか。

◆ウォーキングコース「句碑の道」のマップは支援センターにありますので是非ご活用ください。

◆作った句を広報さかえの俳句欄に応募してみませんか。

支援センターに投句箱があります。

毎月9日までに、直接お持ち下さい。